



執行役常務
エネルギー事業本部長

中川 操

エネルギー事業のグローバル展開 —ビジネスパートナーの 真のニーズを捉える—

Global Expansion of Energy Business
— Understanding the True Needs of
Business Partners —

日立化成は、1962年に日立製作所から分離独立した時の4製品(絶縁ワニス、カーボンブラシ、積層板、絶縁ガイシ)を源流製品として、材料技術、プロセス(合成・加工)技術、評価技術を基盤に多くの製品群を生み出してきました。現在、日立化成の注力事業は、情報通信、環境・エネルギー、ライフサイエンス、そして自動車の4分野にわたります。

今回、特集で取り上げるエネルギー事業は、二次電池やキャパシタなど蓄電デバイスを中心に、関連する蓄電システム、電池の状態監視やメンテナンスに係わるサービス・ソリューションを提供する事業分野で、産業用と自動車用の二つの用途を対象としています。

蓄電デバイスは、情報通信や自動車等の基幹産業にニーズがあり、今後も安定な成長を期待できる事業分野です。また近年では、地球温暖化などへの関心の高まりから、再生可能エネルギーの導入や電動化によるCO₂排出削減など、新しい分野に用途が拡大しています。

我々は、このエネルギー事業を日立化成の新たな柱事業に成長させるべく、国内からグローバルへの展開に軸を置き、非連続成長を進めて参りました。

その最初が、CSBをブランドとする日立化成能源科技股份有限公司(以下、HCEN社)の連結子会社化(2014年度)です。HCEN社は台湾に本社を置き、UPS(無停電電源装置)用の小形電池を生産販売する会社で、お客様にはUPSのグローバルトップ3社が含まれます。大形産業用電池を得意とする日立化成とは、製品構成において補完的な関係にあり、また、グローバルな販売ネットワークを有することを特徴としています。

続いて、FIAMMをブランドとし、当社過半保有の合併会社であるFIAMM

Energy Technology(以下、FET社)を設立しました(2016年度)。FET社は、イタリアに本社を置き、自動車用バッテリーと産業用蓄電池を扱う会社で、欧州を中心に高い市場シェアを有しています。我々はこれにより、欧州初の製造拠点と、商流、ブランドを獲得しました。その結果、17年度は日立化成グループにとって、「欧州元年」といえる年となりました。

さらに、2017年度に入り、Thai Storage Battery Public Company Limited(以下、TSB社)の株式取得を進め、同社を連結子会社としました。3Kブランドを有するTSB社は、タイに本社を置き、自動車用バッテリーを中心に扱う会社で、ASEANで高いブランド力を有しています。

我々はこうした活動を通じて、国内に続く、欧州、ASEANのエネルギー事業を軌道に乗せ、「規模拡大によるグローバル市場での地位確立」をめざしています。

エネルギー事業のグローバル展開において重要なのは、新しいグループ会社との対話です。対話は双方にとってのシナジー実現につながります。特に、開発面のシナジーは、単に技術を融合するというのではなく、それぞれが知るお客様の先端ニーズをきちんと共有し、それに応えるよりよい製品をいかに創出するかがキーとなります。日立化成のコアである材料技術、プロセス技術、評価技術をもって、お客様のグローバルなニーズにお応えする。また、お客様のシステムに最適な使い方をめざし、システムを知り最適な電池を提案する「システムのわかる電池屋」になる。これが我々のめざす姿です。

お客様の真のニーズを正しく捉え、お客様と協創する取り組みは、エネルギー事業に留まらず、日立化成グループ全体の取り組みでもあります。

2017年1月、日立化成は本社隣接ビルの29階にイノベーションセンタをオープンしました。エネルギー事業部門も、イノベーションセンタ活動の一翼を担い、推進をしています。イノベーションセンタは、日立化成が有するさまざまな技術を、実物、コンセプト展示、また映像情報とともにみていただき、お客様と語り合うための場です。情報通信、環境・エネルギー、ライフサイエンス、そして自動車に係わる事業分野から、お客様のリクエストにあわせた技術を紹介するプライベートギャラリーを準備してお待ちします。お客様と協創し、さまざまな先端ニーズにお応えして参ります。

私たちは、未知の領域に踏み出すチャレンジ精神をもって、化学を超えた「新しい価値」を創造し、社会やお客様の期待を超える「驚き」をこれからも実現して参ります。